

目 立 養 成 所 通 信

(3)

當所研究部製材研究室長北澤技師は12月1日より静岡県鋸目立養成所に入所幹部教育を受けているが、その通信が届きましたので茲に逐次登載致します

詳しく近況お知らせ下され有難うございます。積雪の少かった旭川も去月の末大分降った由、これでどうやら北海道らしい景色になったわけですね。こちらは次第に春の息吹きが聞えて来るような陽気になって参りました。庭先の赤い花も春の雨でポトリポトリと落ち、新しい木の芽が少し宛て伸びて参りました。

勉強の方は、三月の月始めから新鋸にかかる予定でしたが、あいにく製材機の特別講義のため一週間遅れ七日からようやく始まりました。毎期間同様な方法で行うのだそうですが今期も、先づ歯抜きと接合だけやっておき、時間を定めておいて丁度マラソンの競技でも行うように「用意始め」で一斉に手をつけ、完全に仕上げ試験挽まで時間を比較することになりました。正規の持時間は、四ヶ班あるため一日一時間半、その他朝、日の出から日没までで、その間を等分に時間を割り振りし、六台のロールは、クジ引きで完了まで使用するのを定め、他の機械は、使えないことになり従って調子の悪い機械を当てた者はまことに気の毒ですが仕方がありません。小生は残念乍らロールを掛けると必ず「ふくれる」最もまづい奴にぶっかり只今苦心さんたんの最中です。先づ第一番目に掛けロール続いて第一回目の腰入れ、これが第一の採点、続いて目立機で歯摺り、これが第二番目の関門、次に又第二回目の腰入れで採点、最後にアサリを出し完全にグラインダーで仕上げ、腰水平を見て試験挽きと言う風に途中数カ所の関所が設けられ、そこに行く度に厳重な検査に出会い、今日は三日目ですが現在第一の関門通過者が七年の経験をもつと言うのが唯一人という状態、一般製材工場でやっている程度に仕上げ、もう大丈夫だろうと検査にもって行くのが殆んどやり直しを宣言されがっかりもどって来ます。目立室の壁に只今申し上げました順に関門と日時、氏名等の記入するグラフがはりつけてあり、一層競争心をかりたて、各持時間の交替時等一秒を争う有様です。今までの試験挽きまでの平均は10日間（正味三日間）という記録になっているそうですが、これが本当の目立競技会とでも申せましょうか、やっている当人は、それこそ真剣そのものですが見ているときぞ面白い事かも知れませんが、御書面によりますと米年度の予算は大分苦しい模様、幹部の皆様もさぞ御心労のことと存じます。

目立用具の件もそのようなお話でもあり、又絶対急を要するものでもありませんので、その内余祐の出来たとき購入していただこうと思います。

鋸の方は卒業迄に5～6本作る予定ですが、購入以外は共に勉強している友人から借用練習させてもらうことにしました。今度据付予定の板挽用25Gはアツサブがなく丸源かT. B. Sあたりは如何かと存じますが、それは、寸法其の他条件を御伺いしてからに致します。

今月からジャワのムルヨノ君が下宿に同居しました同君は此の度のインドネシア独立運動に参加、大いに活躍したと言う、ジャカルタ大学林学科出身の好青年です。

養成所では殆んど20才前後の若者ばかりでもあり話し相手が少く寂しいからとかで是非にとこの下宿に越してきて、毎日日本語を勉強しています。在日二年で日本語も可成り上手になりましたが、未だ時々とんちんかんの事を言ったりして笑わせませす。小生は英語がどうも苦手で今更乍ら不勉強の過去を後悔していますが、ムルヨノ君に説明するときは、うろおぼえの英語でどうやら間に合せています。

話しは変わりますが、将来の北海道の製材或は、最近殊に問題になっている薄鋸の利用面等については確かに検討の余地があるように小生にも亦感じられます。厚い板や角材をとるのに薄鋸の効果が果して如何程あるか、又優秀な大径木の逐次減少しつつある今日、もっと薄板製材にして木材を有効に活用出来ないものか等々、旧来の製材方式に思い切ったメスを入れる余地は必ずしも皆無とはい切れないように思われます。

指導所の若い職員が若干移動した由、各専門部門で勉強した事を別な職場で活用するのもまことに喜ばしい事と存じます。

目立入門の第1回目作品が近い内に出来上ると思うと何とも言えない気持です。果してうまく挽けるかどうか心配には心配ですが、この次のお便りには必らず成果を御報告出来るようガンバッテやってみます。

体の方の調子は幾分よくなり食欲は至って旺盛で三食の外、パン或いはウドンを欠かさずとっており体重は例の脊せ型の所更に700匁減り13貫5.6百ですが、いたって元気ですから其の点は何卒御安心下さい。

尚出張の件は県内（2、3時間以内、片道）が見学

試験挽きて5、6回予定されています。

予算が少い由ですから旅費は別として御報告だけ致すことにします。

とりとめもない事許り申し上げましたが、又機会をみてそちらのニュース等お聞かせ願えれば幸甚です。

八方の御活躍でお体を御大切をお願いします。所の皆様方には御無沙汰致して居りますがよろしくお伝えの程お願い申し上げます。

3月9日

敬 具

早春の候皆様には益々御壮健にてお仕事に御精進のことと御遠察申し上げます。

こちら一雨毎に暖さを増し、勢いづいた麦の芽も既に7、8寸に伸び葉のなかった木々の梢にも新しい今年の芽が次第にくっきりと見えるようになって参りました。

さて当方の目立技術の面は、先日御報告申し上げました通り只今新しい鋸を手掛け毎日一生懸命にやっております。

お蔭様で延べ八日間は要しましたが、一昨日どうやら試験挽きを致す段取りに進み、第1回目の試験を無事完了、結果は決して満足し得る程には参りませんでした。どうやら板を挽ける鋸を作ることが出来、今後の上達如何は別としまして先づホットしたところです。本日までに24名中半数は試験挽きを完了、小生は第一ブロックの五番以内となり割合に早く仕上げる事が出来、幾分かは安心することが出来ました。未だ完了しない者の中には第1回の腰入れはおろか完全と思われる部分は殆んど皆無で、もう始めてから10日というのに2尺位のところを毎日繰り返して繰り返してひねり廻している状態なのがあり、余りにも差の大きいのに驚いています。2、3の連中は半ば投げ出し気味にさえ見受けられ、競争とは言え、まことに気の毒に感じ同じ初歩からの同僚同志で先越とは感じ乍ら時々手伝ってやったり自分の持時間を割いて譲ってやることもあります。ところが中には概して成績の良い連中に多いようですが、自分の鋸の仕上のみを急ぎ他の相当遅れている者には勿論おかまいなく、場合によっては更に他の者の割り当時間にまで食い込んで順位を争い年若の遅れた者を平気でおしのけ自己本位にやっている者

が居り気の短い小生など時々義憤をおぼえる場面もありますが、こんなのも社会の一面かなあとも考えさせられる次第です。

この度仕上げました鋸は、初め購入した24Gに思いましたが、友人のところで急ぐのがある由でそれを引受けてやってみました。

条件は

厚：23G 巾5" 歯距：1" 歯喉角：28°

テンション 24呎：バック70cmに対し0.6耗

第1回の試験で最も強く感じた事は水平仕上げです。前々から注意はされていましたが、薄鋸の最も肝心なところは水平であるか否かの点であると言うことをしみじみ味されました。腰入れ、バック盛りは勿論大切な事でしょうが、この水平仕上の良否によって挽肌、挽曲りに余りにも明りように証明付けられ、他の部分は多少不満足でもこの点だけは絶対にごまかしの利かない事がわかりました。

このあとはしばらく仕上げた鋸の更に精密を期し、それが終わりましたら25Gに移ろうと思います。現在程度では、まだまだ自信などと言うところまでは参りませんが時間をかけて余りあせらずにさえやれば、どうやら薄鋸も作れることが出来そうに思います。尚一層がん張って早くそして立派なものを作れるよう努力して参ります。

明後日は、全員で野田合板と富士製作所の見学に出かけますので、小生も同行致したいと思っております。

伊豆方面では、もう桜が満開になっているところがあるそうです。しかし遅い乍らも北海道のように雪国の場合は、春の訪れと共にかすかに見え初めに大地の地肌から黄色い若芽のチョココン、チョココンとはい出して来る感じはとうてい当地方などでは味えない楽しいものと存じます。

スキーもそろそろ倉庫に納め又ラケットを振る時期も参りますね。小生も少しでも多く技術を習得し安心して帰れるよう希い乍ら勉強致して参ります。今日はとりあえず第1号作品完成の御報告と近況をお知らせ致しました。

敬 具

3月16日

目立養成所通信(3)

当所研究部製材研究室北澤技師は12月1日より静岡県鋸目立養成所に入所幹部教育を受けているが、その通信が届きましたので茲に逐次登載致します

詳しく近況をお知らせ下され有難うございます。積雪の少なかった旭川も去月の末大分降った由、これでどうやら北海道らしい景色になったわけですね。こちらは次第に春の息吹が聞こえてくるような陽気になって参りました。庭先の赤い花も春の雨でポトリポトリと落ち、新しい木の芽が少し宛て伸びて参りました。

勉強の方は、三月の月始めから新鋸にかかる予定でしたが、あいにく製材機の特別講義のため一週間遅れ七日からようやく始まりました。毎期間同様な方法で行うのだそうですが今期も、先ず歯抜きと接合だけやっておき、時間を定めておいて丁度マラソンの競技でも行うように「用意始め」で一斉に手をつけ、完全に仕上り試験挽まで時間を比較することになりました。正規の持ち時間は、四ヶ班あるため一日一時間半、其の他朝、日の出から日没までで、その間を等分に時間を割り振りし、六合のロールは、クジ引きで完了まで使用するのを定め、他の機械は、使えないこととなります。従って調子の悪い機械を当てた者はまことに気の毒ですが仕方がありません。小生は残念乍らロールを掛けると必ず「ふくれる」最もまずい奴にぶつかり只今苦心さんたんの最中です。先ず第一番目に掛けロール続いて第一回目の腰入れ、これが第一の採点、続いて目立機で歯摺り、これが第二番目の閉門、次に又第二回目の腰入れで採点、最後にアサリを出し完全にグラインダーで仕上げ、腰水平を見て試験挽きと言う風に途中数力所の閉所が設けられ、そこに行く度に厳重な検査に出会い、今日は三日目ですが現在第一の閉門通過者が七年の経験を持つと言うのが唯一人という状態、一般製材工場で行っている程度に仕上げ、もう大丈夫だろうと検査にもって行くのが殆どやり直しを宣言されがっかり戻ってきます。目立室の壁に只今申し上げました順に閉門と日時、氏名等の記入するグラフがはりつけてあり、一層競争心をかりたて、各持ち時間の交替時等一秒を争う有様です。今までの試験挽きまでの平均は10日間(正味三日間)という記録になっているそうですが、これが本当の目立競技会とでも申せましょうか、やっている当人は、それこそ真剣そのものですが見ているとさぞ面白い事かも知れませんね。さて30年度もあと1ヵ月足らずで参りますが、御書面によりますと来年度の予算は大分苦しい模様、幹部の皆様もさぞ御心労のことと存じます。

目立用具の件もそのようなお話でもあり、又絶対急を要するものでもありませんので、その内余裕の出来たとき購入していただこうと思います。

鋸の方は卒業迄に5~6本作る予定ですが、購入以外は共に勉強している友人から借用練習させてもらうことにしました。今度据付予定の板挽用25Gはアツサブがなく丸源がT.B.Sあたりは如何かと存じますが、それは、寸法其他条件を御伺いしてからに致します。

今月からジャワのムルヨノ君が下宿に同居しました。同君は此の度のインドネシア独立運動に参加、大いに活躍したと言う、ジャカルタ大学林学科出身の好青年です。

養成所では殆ど20才前後の若者ばかりでもあり話し相手が少なく寂しいからとかで是非にとこの下宿に越してきて、毎日日本語を勉強しています。在日二年で日本語も可成り上手になりましたが、未だ時々とんちんかんの事を言ったりして笑わせます。小生は英語がどうも苦手で今更乍ら不勉強の過去を後悔していますが、ムルヨノ君に説明するときは、うるおぼえの英語でどうやら間に合わせています。

話は変わりますが、将来の北海道の製材或は、最近殊に問題になっている薄鋸の利用面等については確かに検討の余地があるように小生にも亦感じられます。厚い板や角材をとるのに薄鋸の効果が果して如何程あるか、又優秀な大径木の逐次減少しつつある今日、もっと薄板製材にして木材を有効に活用出来ないものか等々、旧来の製材方式に思い切ったメスを入れる余地は必ずしも皆無とは言い切れないように思われます。

指導所の若い職員が若干移動した由、各専門部門で勉強した事を別な職場で活用するのもまことに喜ばしい事と存じます。

目立入門の第一回目作品が近い内に出来上がると思うと何とも言えない気持ちです。果たしてうまく挽けるかどうか心配には心配ですが、この次のお便りには必ず成果を御報告出来るようガンバッテやってみます。

体の方の調子は幾分よくなり食欲は至って旺盛で三食の外、パン或はうどんを欠かさず

とっており体重は例の痩せ型の所更に 700 匁減り 13 貫 5.6 百ですが、いたって元気ですから其の点は何卒御安心下さい。

尚出張の件は県内（2、3 時間以内、片道）が見学

試験挽きで 5、6 回予定されています。

予算が少ない由ですから旅費は別として御報告だけ致すことにします。

とりとめもない事ばかり申し上げましたが、又機会をみてそちらのニュース等お聞かせ願えれば幸甚です。

八方の御活躍でお体を御大切をお願いします。所の皆様方には御無沙汰致して居りますがよろしくお伝えの程お願い申し上げます。

3 月 9 日

敬具

早春の候皆様には益々御壮健にてお仕事に御精進のことと御遠察申し上げます。

こちらも一雨毎に暖かさを増し、勢いづいた麦の芽も既に 7、8 寸に伸び葉のなかった木々の梢にも新しい今年の芽が次第にくっきりと見えるようになって参りました。

さて当方の目立技術の面は、先日御報告申し上げました通り只今新しい鋸を手掛け毎日一生懸命にやっております。

お蔭様で延べ八日間は要しましたが、一昨日どうやら試験挽きを致す段取りに進み、第 1 回目の試験を無事完了、結果は決して満足し得る程には参りませんでした。どうやら板を挽ける鋸を作ることが出来、今後の上達の如何は別としまして先ずホットしたところです。本日までに 24 名中半数は試験挽きを完了、小生は第一ブロックの五番以内となり割合に早く仕上げることが出来、幾分かは安心することが出来ました。未だ完了しない者の中には第一回の腰入れはおろか完全と思われる部分は殆ど皆無で、もう始めてから 10 日というのに 2 尺位のところを毎日繰り返し繰り返しひねり廻している状態なのがあり、余りにも差の大きいのに驚いています。2、3 の連中は半ば投げ出し気味にさえ見受けられ、競争とは言え、まことに気の毒に感じ同じ初歩からの同僚同志で先越とは感じ乍ら時々手伝ってやったり自分の持ち時間を割いて譲ってやるがあります。ところが中には概して成績の良い連中に多いようですが、自分の鋸の仕上げのみを急ぎ他の相当遅れている者には勿論おかまいなく、場合によっては更に他の者の割り当て時間にまで食い込んで順位を争い年若の遅れた者を平気でおしのけ自己本位にやっている者が居り気の短い小生など時々義憤をおぼえる場面もありますが、こんなのも社会の一面かなあとも考えさせられる次第です。

この度仕上げました鋸は、初め購入した 24G にと思いましたが、友人のところで急ぐのがある由でそれを引受けてやってみました。

条件は

厚：23G 巾：5 歯距：1 歯喉角：28°

テンション 24 フィート：バック 70cm の対し 0.6mm

第 1 回の試験で最も強く感じた事は水平仕上げです。前々から注意はされていましたが、薄鋸の最も肝心なところは水平であるか否かの点であるということをしみじみ味されました。腰入れ、バック盛りは勿論大切な事でしょうが、この水平仕上げの良否によって挽肌、挽曲りに余りにも明りょうに証明付けられ、他の部分は多少不満足でもこの点だけは絶対にごまかしの利かない事がわかりました。

このあとしばらく仕上げた鋸の更に精密を期し、それが終わりましたら 25G に移ろうと思います。現在程度では、まだまだ自信などと言うところまでは参りませんが時間をかけて余りあせらずにさえやれば、どうやら薄鋸も作れることが出来そうに思います。尚一層がん張って早くそして立派なものを作れるよう努力して参ります。

明後日は、全員で野田合板と富士製作所の見学に出かけますので、小生も同行致したいと思っております。

伊豆方面では、もう桜が満開になっているところがあるそうです。しかし遅い乍らも北海道のように雪国の場合は、春の訪れと共にかすかに見え初めに大地の地肌から黄色い若芽のチョコン、チョコンとはい出して来る感じはどうい当地方などでは味わえない楽しいものと存じます。

スキーもそろそろ倉庫に納め又ラケットを振る時期も参りますね。小生も少しでも多く技術を習得し安心して帰れるよう希い乍ら勉強致して参ります。今日はとりあえず第 1 号作品完成の御報告と近況をお知らせ致しました。

敬具

3 月 16 日